# 雨水利用と私

今泉壽枝

日本が世界に発信している大きなスティートメントの一つは広島・長崎の核兵器の使用禁止であるが、もう一つは墨田の市民運動の「雨水利用プロジェクト」ではないかと私は思っている。
この市民活動は、世界で雨水を獲得するために重労働をしている主に女性と子どもを救うため、ボランティアをあちこちの国に派遣し自分たちの方法と機材を持ち込んで指導にあたっているものである。
今も主なメンバーが継続的に長期に渡り活動していることに敬意を表し、次のノーベル平和賞は「墨田雨水の会」の雨水利用の番だと期待している。

私は 50 年前、都電のような電車一両のみで走る新京成電鉄に乗って、今も住んでいる松戸市金ケ作に引っ越してきた。
高度経済成長期であり、松戸が新興住宅地として広域開発がされ始めた時期であったが、当時の松戸はまだ故郷の青森とほとんど変わらない田舎であった。

県の水道は我が家の引っ越しから二か月遅れの工事だったため、それまでの間は近所の農家の掘り抜き井戸水を分けてもらいしのぐことになった。お互いに助け合うことが自然にあった時代であった。
ただ、平和でのんびりとした生活を楽しんだのは束の間のことだった。

仕事の産休明けに伴う子供の預け場所探しに始まり、新しい生活に慣れるまで色々な課題があり右往左往したが、もっとも困ったのは酸性雨の襲来であった。
井戸水の安全性が騒がれ、幼い子供を育てる身として気になることばかりの中、ある日、ニュースで飲み水の調査に尽力して活動している人が紹介されていた。
その人は墨田区役所の村瀬誠さんで、飲み水調査のベテランとして埼玉の幼稚園などあちこちへ駆けまわって活動をしているとのことだった。
こうして墨田区が住民運動として雨水を貯め都会の洪水対策のしていることを知り、また心配していた酸性雨も、降り始めの数分に気を付ければさほど影響はないとわかった。

雨水に関して晴天の霹靂だったのは、東日本大震災での原発事故である。
金ケ作改め小金原と住所名が変わった我が家付近を含む松戸市や周辺市町村が、原発事故による放射能汚染地域となったのだ。
さらに事故後、安全基準となるセシウムの数値が緩く変更された。

そして東日本大震災以前は放射能廃棄物として特別扱いであったごみが、通常ごみの基準区分に入ることになった。
私は安全基準が変更したことに対する明確で信用できるデータを持っていないため、このことで降ってくる雨に対する信頼が薄れ、庭の草花にも水道水を使うようになり今に至っている。

　人間が安心して心豊かに暮らすには、空から降る雨水に対する絶対的な信頼が必要だ。
未来を生きる子供達のためにも、雨水を無条件で信用し使用できるような世界になるよう今後も雨水について考えることから未来が切り開かれることを期待している。

以上